

毛を風切らう云つ目の毛をいふ橘の都ハ八皇第廿七代安閑天皇

の皇居也日本書紀ハ卷十元年春正月遷都于大倭國勾金橘と

出萬葉集二卷ハ鳴宮ミナノミヤ勾乃池マカリノイケ之放鳥ハナチトリとよこ又其末乃云のち

橘之鳴宮ミナノミヤハ者ともあり是則安閑天皇の都めく天武天皇

皇子日並知尊も此地と領多ひくころは宮とも建多ひくもや

高市郡めく今の橘寺にありあはれや此の橘を橘よむいと

あやとよこすめはうく昔は安閑天皇の都の時より存ハ

ありつゝむとよみ趣向也又橘よあるところげくも昔の

つらふきこ餌ともおもはれども此の餌がうきを思へど思と

あやうもそれより餌とて書いめをあらびやへかゝるを唯